

「知って」「守って」「楽しむ」西部地域

<p>野生動物との健全な関係を壊さないために</p> <p>詳しくは5ページをチェック</p>	<p>1</p>  <p>野生動物には絶対にエサをやらぬ・見せない</p>	<p>2</p>  <p>観察するときは車をきちんと止めましょう</p>
<p>3</p> <p>10m</p>  <p>野生動物とは10m以上の距離を保ちましょう</p>	<p>4</p>  <p>サル目をじっと見るのは控えましょう</p>	<p>5</p> <p>NO!</p>  <p>動物は静かにそっと観察しましょう</p>
<p>安全で楽しいドライブのために</p> <p>詳しくは13ページをチェック</p>	<p>1</p>  <p>対向車に注意してゆっくり走行しましょう</p>	<p>2</p>  <p>走行中は動物の飛び出しに注意しましょう</p>
<p>3</p>  <p>西部林道には公衆トイレはありません</p>	<p>4</p>  <p>西部林道では携帯電話はほとんど通じません</p>	<p>5</p>  <p>夜間走行は危ないためおすすめしません</p>

■ 問い合わせ先
 環境省屋久島自然保護官事務所
 鹿児島県熊毛郡屋久島町安房前岳2739-343
 TEL: 0997-46-2992

発	行	環境省屋久島自然保護官事務所
発	日	令和6年3月改訂第2版
表紙	イラスト(一部)	熊澤英俊
写	真	提供 手塚賢至
協	力	西部地域の持続的活用に向けたワーキンググループ



WEBでも見られます!



環境省屋久島自然保護官事務所

屋久島国立公園、世界自然遺産地域

せいぶちいき
西部地域へようこそ

屋久島の西部には日本有数の規模を誇る照葉樹林が広がっています。この地域は、“西部地域”と呼ばれ、海岸から山の頂上まで美しい緑の森に覆われています。その豊かな森には多くの植物や動物が暮らしており、世界自然遺産にも登録されています。

“西部林道”とは、この地域を南北に貫く、狭い一本の道路のこと。この道は豊かな植生帯をくぐり抜けるように走るため“緑のトンネル”とも呼ばれ、野生のサルやシカの観察にも適した場所として知られています。

この冊子では、西部地域で野生動物を観察する際に必ず守っていただきたいルールをまとめました。

西部地域のすばらしい自然や、野生動物との健全な関係を壊さないために、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



ヤクシマガル



ヤクシカ

目次

西部地域とは、どんなところ？	3
サル・シカ観察5つのルール	5
ヤクシマガルのこと	7
ヤクシカのこと	9
西部地域のかつての暮らし	11
保全の取り組み	12
西部地域マップ	13



西部地域を含む一帯は、世界遺産地域です！

西部地域を含む一帯は、昭和39年3月に霧島屋久国立公園（平成24年から屋久島国立公園）に指定され、平成5年12月には世界自然遺産地域に登録されました。西部地域は、国立公園の特別保護地区として厳正に保護されており、植物の採取や動物の捕獲、工作物の設置などが規制されています。

各種行為には自然公園法に基づく許可申請や土地所有者への申請が必要な場合があります。不明な点については、環境省や土地管理者である林野庁や鹿児島県に相談してください。

1 西部地域とは、どんなところ？

屋久島の西部には、日本有数の規模を誇る照葉樹林が広がっていて、通称“西部地域”と呼ばれています。

しょうようじゅりん

● 照葉をもつ樹

照葉樹は冬でも青々とした葉をつけている常緑の木です。冬の寒さや乾燥から身を守るために葉の表面のクチクラ層が発達し、つやつやと光沢があることから、このように呼ばれています。

“照葉樹林”は、主にこの照葉樹で構成される森のことで、かつては西日本の低地に広く分布していましたが、今では、まとまった規模の森は少なくなりました。



リンゴツバキ

● 屋久島ならではの豊かな植生

西部地域は、海岸から山頂まで途切れることなく、自然な緑の森に覆われている屋久島唯一の地域です。海岸部と標高2,000mに迫る山頂部との気温差は約12℃。山頂部は札幌とほぼ同じ寒さです。

そのため、海岸に近い場所では南の島らしい植物が生え、標高があがるにつれ、寒いところに分布するスギやモミが混じるスギ樹林帯に変わり、山頂部はヤクシマダケの草原になります。

● 世界自然遺産になった理由

屋久島は日本列島の南に位置しているにもかかわらず、ひとつの島の中で南北に長い日本の自然植生をみることができま

す。海岸から山頂までの多様な自然植生、すなわち、“植生の垂直分布”が連続して残されていたことが、屋久島が世界自然遺産に登録された理由のひとつです。

西部地域はこの垂直分布を眺めることができる貴重な場所です。

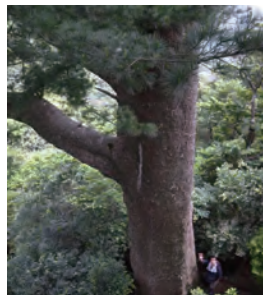


植生の垂直分布

● 絶滅危惧種ヤクタネゴヨウ

ヤクタネゴヨウは五葉松の仲間です。屋久島と種子島の二島のみで自生しています。巨木になり、樹脂が多く、材も加工しやすいことから古来より船材（丸木舟）や建築材として使われてきました。

屋久島の個体数は2,500本程度で絶滅が危惧されます。西部地域はこのヤクタネゴヨウの最大の自生地です。



ヤクタネゴヨウ (写真:手塚賢至)

5 サル・シカ観察 ルール

ルールを守って、
野生動物にやさしい観察を!

① 絶対に食べ物をやらない・見せない

野生動物へのエサやりは **違法** です!

国立公園の特別地域等で、野生動物の生態に影響を及ぼすおそれのある「エサやり・著しい接近・つきまとい」の行為は自然公園法の規制対象になり、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。

また、町の「屋久島町猿のえ付け等禁止条例」では、サルへのエサやりが禁止されており、違反者には5万円以下の過料が課せられる場合があります。

行動への影響

人の食べ物の味を覚えた動物は、エサをもらうために人に近づき、人を攻撃するようになります。食べ物を見ると、急に近づいてきたり、威嚇したりするサルもいます。食べ物を与えるのはもちろんのこと、見せるのも厳禁です。



エサに頼るようになった動物は、農地を荒らすようになる可能性があります。

健康面への影響

人の食べ物は野生動物にとって有害なこともあります。また、エサを通して人間の病気が彼らにうつることもあります。

生態系への影響

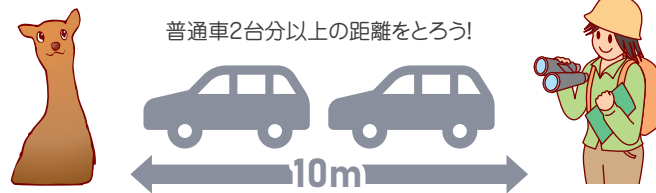
自然界は私たちが計り知れない複雑なつながりの中で成り立っています。サルやシカなどの野生動物の行動を人間が変えてしまうことは、このつながりを崩してしまうことなのです。

② 車をきちんと停めてから

西部林道で観察するときは、空いたスペースに駐車するなど、他の車の通行の邪魔にならないように、観察をしましょう。

③ 10m以内に近づかないで

野生動物に近づきすぎていませんか? カメラのレンズやスマホの画面を覗いていると、動物が嫌がっているのに気づかないことがよくあります。近づきすぎると、逃げてしまったり、逆に攻撃されることもあります。



④ サルの目を見ないで

サルは人の視線や態度に敏感です。サルの目をじっと見たり、からかったりしないようにしましょう。サルは自分への威嚇や攻撃だと思い、逃げたり攻撃してくることがあります。



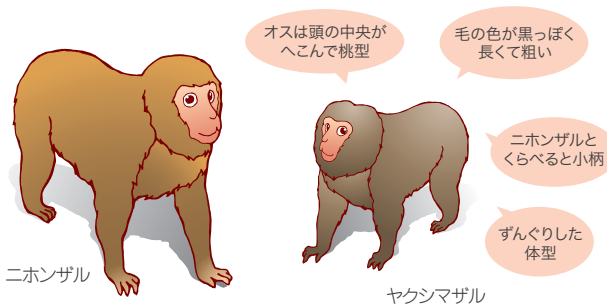
⑤ 静かにそっと観察しよう

道端に転がって毛繕いをしたり、リラックスしているように見えても、動物は人間の行動を気にしています。静かにそっと観察すると、動物の自然な姿をじっくりと見ることができます。

2 ヤクシマザルのこと

●ニホンザルの亜種

世界には約450種*のサルがいますが、日本にもともと分布するのは、ニホンザルだけです。ニホンザルは青森県の下北半島から屋久島まで生息していて、ホンダザルとヤクシマザルの2つの亜種に分けられます。ヤクシマザルはその名のとおり、屋久島だけに生息しています。



●寿命は約25年

赤ん坊の多くは春に生まれます。生まれて半年くらいは母ザルのお乳を吸って育ち、その後少しずつ森の植物を食べ始めます。独り立ちするのは4～5歳です。雌ザルは6歳くらいから子どもを産みはじめ、生涯を生まれた群れで暮らします。

一方、雄ザルは4歳くらいから、生まれた群れから離れはじめます。その後は別の群れに入ったり、雄だけの群れで暮らし続けます。一匹で暮らすこともあるようです。

●大好物は森の果実

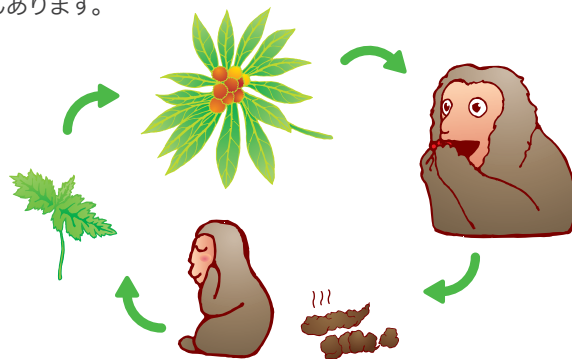
サルたちの大好物は森の果実です。初夏にはヤマモモやイヌビワ、秋から冬にはドングリなど様々な果実を食べます。果実と同じくらい葉っぱも食べていて、利用する植物は100種ほどです。この他にキノコや昆虫などもよく食べます。

●森のあちこちに種子をまくサル

サルが食べた果実は消化されてなくなってしまうわけではありません。サルの糞の中にはたくさんのタネが混じっていて、条件が揃えば、やがて芽を出します。

自分で動けない植物にとって、果実がサルに食べられることは、自分の子孫を離れた場所に運んでもらえる重要な機会です。

このため、植物の方も甘い果肉や目立つ色をつけて、サルや鳥などに果実を食べてもらいやすくしているものがたくさんあります。

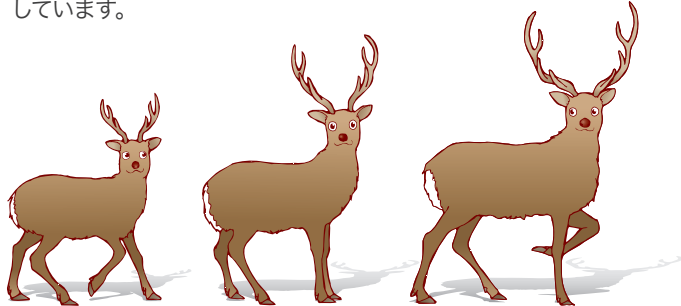


*参考文献：日本モンキーセンター、「霊長類図鑑—サルを知ることはヒトを知ること」、京都通信社、2018。

3 ヤクシカのこと

●ニホンジカの亜種

世界には約50種のシカがありますが、日本にもともと分布するのは、ニホンジカだけです。ニホンジカはさらにエゾシカ(北海道)、ホンシュウジカ(本州)、キュウシュウジカ(九州)など、7つの亜種に分けられています。ヤクシカはニホンジカの中では、最も体が小さい亜種で、屋久島と隣の口永良部島にのみ生息しています。



ヤクシカ
体重:約19~37kg

ホンシュウジカ
体重:約49~80kg

エゾシカ
体重:約80~150kg

●恋と子育て

秋、発情期を迎えた雄ジカは「フィーヨー」と大きな声を発します。森の中では雌を追いかけたり、雄同士で角突きをする姿が見られます。西部地域の雌ジカは3~5歳の初夏に初めて1頭の子ジカを出産します。子ジカは雌雄とも2歳頃まで母親と行動を共にします。雌はその後も母親との関係が続きますが、雄は疎遠になるようです。

●夏と冬で模様が違う?

シカは夏毛と冬毛で色が変わります。春になると毛足の長い冬毛が抜け、鹿の子模様のある明るい体色になります。秋が深まる頃、長い毛が生えてきて暗い体色に変わります。特に、雄ジカの体色は黒っぽく目立ちます。



●角の豆知識

雄ジカにだけ生えるシカの角は毎年新しく生え変わります。春先、古い角は脱落し、ベルベット状の短毛に覆われた“袋角”が生え、秋には皮が剥けて白骨のような“枯角”に変身します。



雄ジカは1~2歳でこぶのような膨らみが現われ、わずか数センチの角が生えてきます。角は生えかわるごとに大きくなり、枝分かれした立派な3本枝になるのは西部地域では5歳以上のようなです。ヤクシカでは、成長しても3本枝どまりのことが多く、4本枝のシカは希です。

●好きな植物、嫌いな植物

シカは植食(草食)動物で基本的に柔らかいものを好み、毒のあるものを嫌います。草だけでなく、落ち葉もよく食べています。

このため、シカの生息密度の高い西部地域の森の中では、シカの嫌いな植物が多く残されます。現在、シカの分布や、森に与える影響を調査しながら、対策を検討しています。



食事をするヤクシカ

4 西部地域のかつての暮らし

西部地域には、かつて人の暮らしがありました。海岸近くの地域には、集落も存在していました。

●炭焼きや畑作で暮らしていた

西部地域は伝統的に永田集落の所有でした。集落内で土地を相続できない次男や三男などが耕作を始め、徐々に住み始めたと言われています。

その時期ははっきりとしていませんが、大正11年の地図に家屋の記号と地名が記載されているため、明治後半から大正初期と考えられています。

人々は、主に炭焼きや畑作で暮らし、クスノキから樟脳を作ったり、シイタケを栽培したりしていたそうです。



●林業会社で働く人も住んでいた

昭和26年から昭和40年頃には、西部地域の一部を民間会社が所有し、パルプ用の木材を伐採していました。

このため、西部地域の海岸近くの森は、人の手の加わったことのある二次林になっています。

昭和35年頃から屋久島ではプロパングスが普及し始め、徐々に木炭を必要としなくなりました。昭和40年代以降には、西部地域で住む人はいなくなったようです。西部林道は、昭和42年に開設されました。

5 保全の取り組み

昭和39(1964)年

屋久島の一部地域が霧島屋久国立公園に指定される。

昭和50(1975)年

西部地域が「国設国割岳鳥獣保護区」に指定される。(1984年に国から県に移管)

昭和57(1982)年

伐採反対運動の高まりを受け、伐採計画が一部凍結され、瀬切川右岸611haが瀬切川学術参考保護林に指定される。

昭和58(1983)年

瀬切川流域が霧島屋久国立公園に編入される。

平成4(1992)年

林野庁が西部地域を含む15,185haを森林生態系保護地域に設定する。

平成5(1993)年

西部地域を含む屋久島の一部が世界自然遺産に登録される。

平成9(1997)年

地元住民や研究者からの反対意見等を踏まえ、「屋久島の一周道路整備検討委員会」で検討が行われ、西部林道拡幅計画が中止される。

平成11(1999)年

平成14(2002)年

西部林道周辺が国立公園特別保護地区に指定される。

平成17(2005)年

鹿児島県が自然保護のために418haの民有地を購入する。

平成24(2012)年

霧島屋久国立公園から屋久島地域が分離し、屋久島国立公園が誕生する。

平成26(2014)年

林野庁が世界遺産地域に隣接して生育する瀬切川周辺のヤクタネゴヨウ群落62haを希少個体群保護林に設定する。

●地元住民や研究者の取り組み

【調査活動】

- ・ヤクタネゴヨウの個体調査(屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊)
- ・ヤクシカ、ヤクシマザル、森林の長期研究(研究者)

【その他】

- ・屋久島学ソサエティ(島民と研究者の学会)
- ・野外観察会の実施(研究者の普及活動)
- ・ボランティアによる清掃活動



6 西部地域マップ

安全で楽しい

ドライブのために
知っておいて欲しい **5選**

対向車に注意

道路が非常に狭くなります。すれ違うときは退避所をご利用ください。昼間でもライトを点灯し、対向車に自分の存在を知らせましょう。

動物の飛び出しに注意

動物が突然道路に飛び出してくることがあります。前方に注意して、スピードを落として走行してください。

公衆トイレはありません

西部地域には公衆トイレはありません。最寄り公衆トイレは永田いなか浜と大川の滝にあります。事前に済ませておきましょう。

携帯電話はほとんど通じません

西部地域には携帯電話の電波が届かない場所が多くあります。公衆電話もありません。安全なドライブ走行を心がけましょう。

夜間の走行に注意

西部林道の夜間走行は危ないため、おすすめしません。大雨や暴風時に通行止めになることがあるので、事前に道路情報を確認しましょう。

世界遺産を車で通れるのは
屋久島では西部地域だけ！



県道78号線の一部を「西部林道」と呼びます。



●西部地域のカーブミラーには、北から南の順に80番まで番号が付いています。
(屋久島灯台入口付近:3番/瀨切付近:80番)

●永田いなか浜～大川の滝まで、車で1時間程度かかります。

こんなとき、どうしたらいいの？



西部地域 Q&A

Q 路上のサルやシカが逃げてくれません

A 車を止めずにゆっくりと前に進んでください

停車すると安心してさらに動かなくなるので、そのままゆっくりと進んでください。クラクションを鳴らしても逃げないことがほとんどです。

Q サルに威嚇されたら？

A ゆっくり目をそらし、背中を見せずに落ち着いて距離をとりましょう

サルがあなたを凝視し、口を半開きにしていたら、あなたは威嚇されています。サルは表情を読む動物なので、おびえた態度も厳禁です！

Q サルやシカの死体を見つけたら？

A 絶対に素手で触らないでください

病気の危険があります。もし死体が道路をふさいでいる場合は、鹿児島県屋久島事務所(☎0997-46-2213)へ連絡してください。

Q 西部林道で交通事故を起こしてしまいました

A 慌てずに、まずは安全を確保しましょう

西部地域周辺は携帯電話の電波が非常に入りにくい場所です。通りかかる車に助けを求めるか、通報が可能な場所まで歩くなどして警察に連絡をしましょう。落ち着いて行動することが大切です。事故発生場所をカーブミラーの番号を参考にナビやスマホなどで記録し、状況写真を複数記録しておきましょう。